

令和8年度「政治・経済」シラバス

科目名		必修・選択	単位数	類型
政治・経済		選択	2 3	GC 文理
教科書 副教材等	政治・経済（数研出版） 最新政治・経済資料集（第一学習社） 4ステージ演習ノート 政治・経済（数研出版）			

1 学習目標

- ・社会の在り方についての見方・考え方を働かせて、現代の諸課題を多様な視点に着目して追究したり解決に向けて構想する。
- ・グローバル化する国際社会において、主体的に生きる平和で民主的な国家の形成に必要な公民としての力を身に付ける。

2 学習概要

- ・第1章の「現代の政治」では、**政治や法、基本的人権の保障や議会制民主主義、地方自治や政党の意義などのしくみを理解する**活動を通じて、現実社会の諸課題を多面的に考察できるようにする。
- ・第2章の「現代の経済」では、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政政策など諸課題の解決を探るために必要な思考や思索を深め、その過程を**説明したり結果を表現出来るようにする**。

3 学習方法

（1）授業への取り組み

予習：まずは教科書を読むことから始めましょう！政経は難しい用語がよく出てくるので辞書で調べておくとう理解が深まる。授業は2～4ページ進むので、一通り読んでおき、欄外の原典（著作の一部）やグラフ、表などにも目を通しておいください。なるべく新しいデータに触れることも重要です。さらに詳しい内容は資料集にあります。

授業中：しっかり聞く＋ノートを取る＝自分だけのオリジナルノートを作る！

板書やスライドの重要事項を写すことは基本ですが、それ以外にも先生の発言や気づいたこと、疑問に思ったことをメモすることを忘れずに。自分だけのノートができるように、色ペンを使ったり、図でまとめたり、プリントを貼ったりするなど、後で見返したときに参考書のようになっていると最高です。これはどの科目でも共通しています。

（2）家庭学習

ワークノートを使って知識の定着を図る。空欄補充だけでなく、「発展演習」も解くことで理解が深まり、実力も身に付きます。秋以降は共通テストの過去問にも挑戦してみよう。

（3）学力向上のために

新聞を読みましょう。図書室にも複数紙置いてありますので、毎日読んで読解力をつけよう。現実社会における事件と政治や経済の関連を考えられればベスト。（Q：日本が円安だと日本の景気はどうなるでしょう？）気になった記事は切り抜いてノートに貼り、感想を書いてみましょう。

4 評価について

（1）評価方法

「知識・技能（①）」、「思考・判断・表現（②）」、「主体的に学習に取り組む態度（③）」の3観点で評価を行います。

具体的に評価方法以下の通りです。

「知識・技能（①）」：定期試験・学力テスト・小テスト・振り返りシートなど

「思考・判断・表現（②）」：授業プリント・振り返りシート・課題作品・発表など

「主体的に学習に取り組む態度（③）」：ノート・提出物・授業態度・課題作品・発表など。

上記の項目を勘案し、単元及び学期、学年の評価とします。

（2）評価規準

	知識・技能（①）	思考・判断・表現（②）	主体的に学習に取り組む態度（③）
評価規準	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明する力を身に付ける。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して自分なりに解決策を提案できるようにする。

5 学習計画

学期	単元名	学習のねらい（内容のまとめりと）	考査等
一 学 期	第1章 現代の政治 第1節 民主政治の基本原則 民主政治とその基本原則 民主政治の展開 政治体制の比較 第2節 日本国憲法と基本的 人権 日本国憲法の性格 基本的人権の保障 平和主義 第3節 日本の政治機構 国会のしくみと役割 内閣と行政機構 裁判所のしくみ 地方自治のしくみ 第4節 戦後政治と政党 選挙制度 世論と情報化社会	・民主政治の歴史について、社会契約説や市民革命の歴史を考察する。 ・議会制民主主義について、イギリスを中心とする議院内閣制とアメリカを中心とする大統領制について、比較して両者の長所と短所を考察する。 ・日本国憲法の成立について、概観するとともに、その基本的性格についての内容をおさえる。 ・自由権について、戦前の人権抑圧の反省を踏まえた飢えで詳細に保障されていることに気づく。 ・平等権と現実的な諸問題について議論し、今後の社会の在り方を模索する。 ・日本の平和は何によって構築されているのか、現実的な国際問題と連動させて考察する。 ・国会や内閣はどのような決まりに従って動いているのかを理解し、実際の政治状況と合わせて課題を追究する。 ・地方自治と国政との関係、独立性なども考え、将来の自治活動を自分なりに考えられるようにする。 ・間接民主制の担い手である自分がどのように政治に関われるのかを考え、日本の将来を他者と議論する。	中間考査 期末考査
二 学 期	第2章 現代の経済 第1節 経済活動の意義と経済体制 資本主義経済の発展と変容 経済主体 第2節 現代経済のしくみ 市場経済のしくみ 国民所得と経済成長 金融と財政のしくみ 第3節 経済と福祉の向上 戦後日本経済の歩み 中小企業と食料問題 公開防止と環境保全 消費者問題 労働問題と社会保障	・資本主義経済の成立について概観し、政治の発展とも絡めて自由主義について考察する。 ・現代における経済主体は、国内だけでなく海外の経済も関連させて考える必要性に気づく。 ・需要と供給のグラフについて理解するとともに、実際には寡占が多いこととその理由まで理解を深める。 ・国民所得の計算をすると共に、日本の経済力についても現状を把握し、今後の日本経済の担い手となる産業を展望する。 ・金融政策・財政政策の基本的理論を抑えた上で、日本においてどのような政策が有効かを生徒一人一人が考え、提案できるようにする。 ・消費者問題や公害問題、食料問題は我々一人一人の喫緊の課題であるので、現代社会で起きている課題を捉えて解決策を模索する。	中間考査 期末考査
三 学 期	第3章 現代の国際社会 第1節 国際政治 国際社会と国際法 戦後国際政治の展開 第2節 国際経済の動向 貿易と国際収支 国際経済のしくみ 第3節 核兵器の廃絶と軍縮問題 地域紛争と民族問題 地球環境とエネルギー問題 発展途上国の経済と日本	・現代の国際社会について、国境を越えた民族の移動、企業の経済活動なども俯瞰して考えられるようにする。 ・戦後の国際政治について、連合国による国際連合設立だけでなく、国際経済（ブレトンウッズ体制）の構築についても言及して考察する。 ・貿易収支についての数値を把握することにより、日本経済の課題をあぶり出し、今後の日本の発展について議論を行い、意見を交換する。 ・軍拡はなぜ起きるのだろうかという単純な疑問から始まって、今後の国際平和について一人一人が意見を持てるようにする。 ・国際社会における日本の地位と国民として世界に貢献できるかを模索できるようにする。	